

学習指導要領改訂に伴う

「総合的な探究の時間」の実践研究

～北海道豊富高等学校「地域探究」シンポジウムを通して～

但田 勝義

● 要約

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や技術革新は、急速な社会変化をもたらし、予測が困難な時代となっている。このような時代にあって、学校教育には他者と協働して課題を解決していくことや情報を再構成して新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

このような時代背景の中、2022 年度完全実施される高等学校学習指導要領では、「総合的な学習の時間」が、「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する」ことを目標とした「総合的な探究の時間」となり、科目名と内容が変わる。

本論文では、現行の「総合的な学習の時間」の成果と課題を分析し、新たに探究学習が求められている意義と今後の可能性を、北海道豊富高等学校の生徒・教職員や町民と開催したシンポジウムを通じて検証し、「総合的な探究の時間」の在り方を報告する。

● キーワード

「総合的な探究の時間」

地域探究

カリキュラム・マネジメント

探究のプロセス

探究課題

持続可能な開発目標（SDGs）

探究学習の評価

はじめに

21 世紀に入り 20 年が経過したが、知識基盤社会の中知識を質・量両面にわたって身に付けていくことの重要性が叫ばれる一方で、子どもの自主性を尊重する余り、教員が指導を躊躇する状況があった。小・中学校における教科の授業時数が、習得・活用・探究という学びの過程を実現するには十分ではなく、学力が十分に育成されていないのではないかとといった危機感が教育関係者や保護者の間に広まった。2008 年学習指導要領改訂では、教育基本法の改正により明確になった教育の目的や目標を踏まえ、知識基盤社会でますます重要になる子どもたちの「生きる力」をバランス良く育ていく観点から見直しが行われた。

特に学力については、「ゆとり」か「詰め込み」かの二項対立から学力の三要素、すなわち学校教育法第 30 条第 2 項 6 に示された「基礎的な知識及び技能」、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」から構成される「確かな学力」のバランスのとれた育成が重視されることとなった。教育目標や内容が見直されるとともに、習得・活用・探究という学びの過程の中で、記録、要約、説明、論述、話し合いといった言語活動や、他者、社会、自然・環境と直接的に関わる体験活動等を重視することとされたところであり、そのために必要な授業時数も確保されることとなった。一方で、我が国の子どもたちはどのような課題を抱えているのであろうか。学力に関する調査においては、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることなどについて課題が指摘されている。また、学ぶことの楽しさや意義が実感できているかどうか、自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識を持てているかどうかという点では、肯定的な回答が国際的に見て相対的に低いことなども指摘されている。

学力については、国内外の学力調査の結果によれば近年改善傾向にあり、国際教育到達度評価学会（IEA）が 2015 年に実施した国際数学・理科教育動向調査（TIMSS 2015）においては、小学校・中学校ともに全ての教科において引き続き上位を維持しており、平均得点は有意に上昇している。また、経済協力開発機構（OECD）が 2015 年に実施した生徒の学習到達度調査（PISA 2015）においても、科学的リテラシー、読解力、数学的リテラシーの各分野において、国際的に見ると引き続き平均得点が高い上位グループに位置しており、調査の中心分野であった科学的リテラシーの能力について、平均得点は各能力ともに国際的に上位となっている。

（2016 年 12 月 文部科学省 中央教育審議会答申）

こうした調査結果からは、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自らの能力を引き出し、学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていくという面から見た学力には、課題があることが分かる。また、スマートフォンなどの普及に伴い、情報通信技術（ICT）を利用する時間は増加傾向にある。情報化が進展し身近に様々な情報が氾濫し、あらゆる分野の多様な情報に触れることがますます容易になる一方で、視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっているのではないかと指摘もある。

新しい学習指導要領等では、「社会に開かれた教育課程」の理念を実現する考え方が教育関係者において共有されることが重要になる。また、学習指導要領等の改訂を機会に、子どもたちが「何ができるようになるか」を重視するという視点が共有され、学校や教職員の創意工夫に基づいた多様で質の高い指導の充実が図られることが求められる。そのために、各教科等において何を教えるかということ的前提に、主に授業時間の取扱いについての考え方や、各教科等の指導に共通する留意事項を示すことに限られていた学習指導要領等の総則の位置付けが抜本的に見直された。このような総則の抜本的な見直しは、全ての教職員が校内研修や多様な研修の場を通じて、新しい教育課程の考え方について理解を深めることができるようにするとともに、「カリキュラム・マネジメント」を通じた学校教育の改善・充実を実現しやすくするものである。

教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子どもの心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であり、その編成主体は各学校である。各学校には、学習指導要領等を受け止めつつ、子どもたちの姿や地域の実情等を踏まえて、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくことが求められる。これが、いわゆる「カリキュラム・マネジメント」である。

「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子どもたちが未来の創り手となるための資質・能力を育んでいくためには、子どもたちが「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」など、家庭・地域と連携・協働しながら実施し、目の前の子どもたちの姿を踏まえながら不断の見直しを図ることが求められる。特に、教育課程全体を通した取組を通じて、教科等横断的な視点から教育活動の改善を行っていくことや、学校全体としての取組を通じて、教科等や学年を越えた組織運営の改善を行っていくことが求められる。各学校が編成する教育課程を軸に、教育活動や学校経営などの学校の全体的な在り方をどのように改善していくのが重要になる。

■「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面

- ①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向けて、子どもたちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

(2016年12月 文部科学省 中央教育審議会答申)

「カリキュラム・マネジメント」の実現に向けては、校長又は園長を中心としつつ、教科等の縦割りや学年を越えて、学校全体で取り組んでいくことができるよう、学校の組織や経営の見直しを図る必要がある。そのためには、学習指導要領等の趣旨や枠組みを生かしながら、各学校の地域の実情や子どもたちの姿と指導内容を関連付けながら、効果的な年間指導計画等の在り方や、授業時間や週時程の在り方等について、校内研修等を通じて研究を重ねていくことも重要である。

また、家庭・地域とも子どもたちにどのような資質・能力を育むかという目標を共有し、学校内外の教育活動がその目標の実現の観点からどのような役割を果たせるのかという視点を持つことも重要

になる。そのため、地域で育まれた文化や子どもたちの姿を捉えながら、地域とともにある学校として何を大事にしていくべきかという視点を定め、学校教育目標や育成を目指す資質・能力、学校のグランドデザイン等として学校の特色を示し、教職員や家庭・地域の意識や取組の方向性を共有していくことが重要である。

こうした組織体制のもと、これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、各教科等の学習とともに、教科等横断的な視点に立った学習が重要であり、各教科等における学習の充実はもとより、教科等間のつながりを捉えた学習を進める必要がある。特に、特別活動や総合的な学習の時間においては、各学校の教育課程の特色に応じた学習内容等を検討していく必要があることから、「カリキュラム・マネジメント」を通じて、子どもたちにどのような資質・能力を育むかを明確にし、それを育む上で効果的な学習内容や活動を組み立て、各教科等における学びと関連付けていくことが重要である。また、高等学校においては、教科・科目選択の幅の広さを生かしながら、生徒に育成する資質・能力を明らかにし、具体的な教育課程を編成していくことが求められる。義務教育段階の学習内容の学び直しなど、生徒の多様な学習課題を踏まえながら、学校設定教科・科目を柔軟に活用していく視点も重要である。

本論文では、北海道豊富高等学校（以下「豊富高校」、生徒数 61 名）の第 1 学年総合「地域探究」の取組と全校活動（シンポジウム）を通して学習した、地域を教材として取り組まれた「総合的な探究の時間」の実践を報告する。

1. 「総合的な探究の時間」の意義

(1) 「総合的な学習の時間」の成果と課題

「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（1996 年第一次答申）の中央教育審議会答申を受け、1998 年教育課程審議会より①各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開できるような時間を確保、②社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するために教科等を超えた横断的・総合的な学習をより円滑に実施するための時間を確保することを目的とした「総合的な学習の時間」が答申された。その後、1998 年に小中学校学習指導要領が告示。翌年高等学校学習指導要領が告示された。20 年を経た「総合的な学習の時間」の成果と課題は、

【成果】

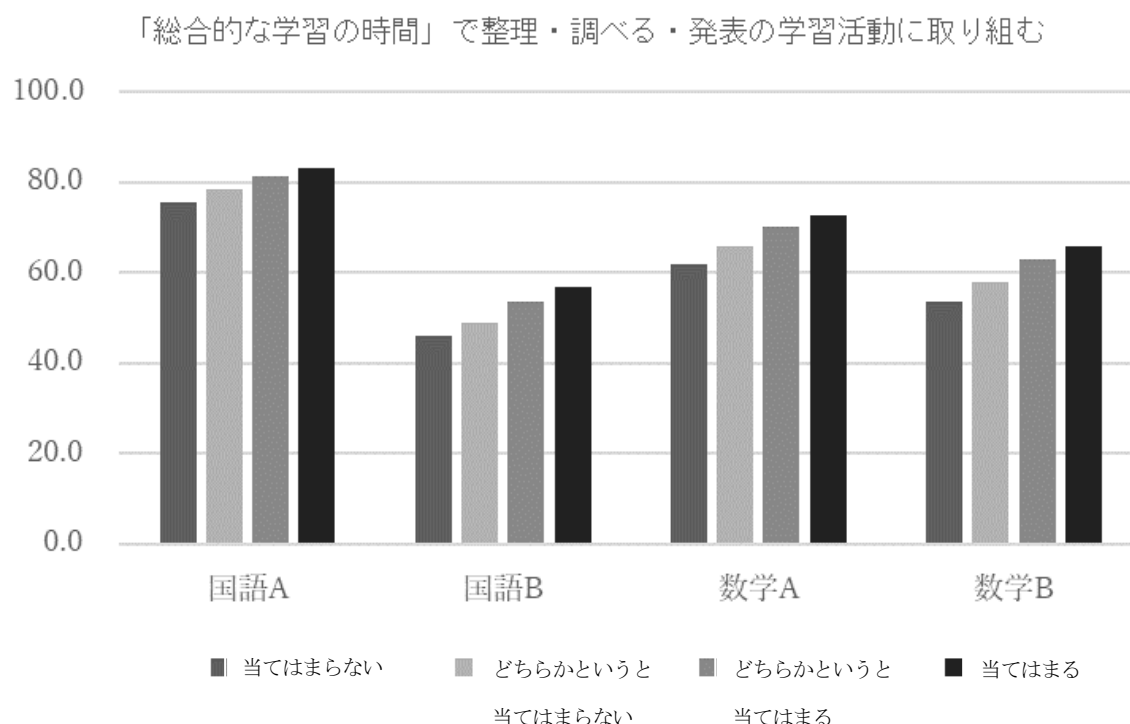
- 全国学力・学習状況調査の結果より、「総合的な学習の時間」の取組が、知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成に関連している。
- 「総合的な学習の時間」の取組が、各教科等の探究的な学習の根幹となっている。
- PISA 調査（OECD）の成績に関連していると高い評価を得ている。

【課題】

- 各教科等とどのように関連しているかを意識せずに取り組んでいるため十分な効果が得られていない。
- 学校により指導方法の工夫や校内体制に格差が生まれている。
- 探究のプロセスの中で「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取り組みが不十分である。注(1)
- 実社会・実生活にかかわる課題をより積極的に扱う必要がある。

といえる。また、2015 年実施の中学校全国学力・学習状況調査の質問紙調査から、「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べることを発表するなどの学習活動に取り組んでいますかという質問に「どちらかという当てはまる」「当てはまる」と回答した生徒の平均正答率が高いという結果が見られた。

図 1 全国学力・学習状況調査質問紙 「総合的な学習の時間」と平均正答率



2015 年 文部科学省「総合的な学習の時間の成果と課題について」掲載グラフ注(2) 作成：但田

(2) 「総合的な探究の時間」の意義

2022 年度完全実施される高等学校学習指導要領では、「総合的な学習の時間」が、「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する」ことを目標とした「総合的な探究の時間」が科目として設けられる。

表 1 は、現行の高等学校学習指導要領と 2018 年告示された高等学校学習指導要領「総合的な探究の時間」の目標を示したものである。現行の目標では、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく資質・能力を育成することを目指すのに対して、改訂の目標は、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指すとされた。全国学力・学習状況調査結果や「総合的な学習の時間」の課題に基づき、自身の在り方を見つめる「学習」から課題の発見と解決に焦点が当たった「探究」に替わったといえよう。

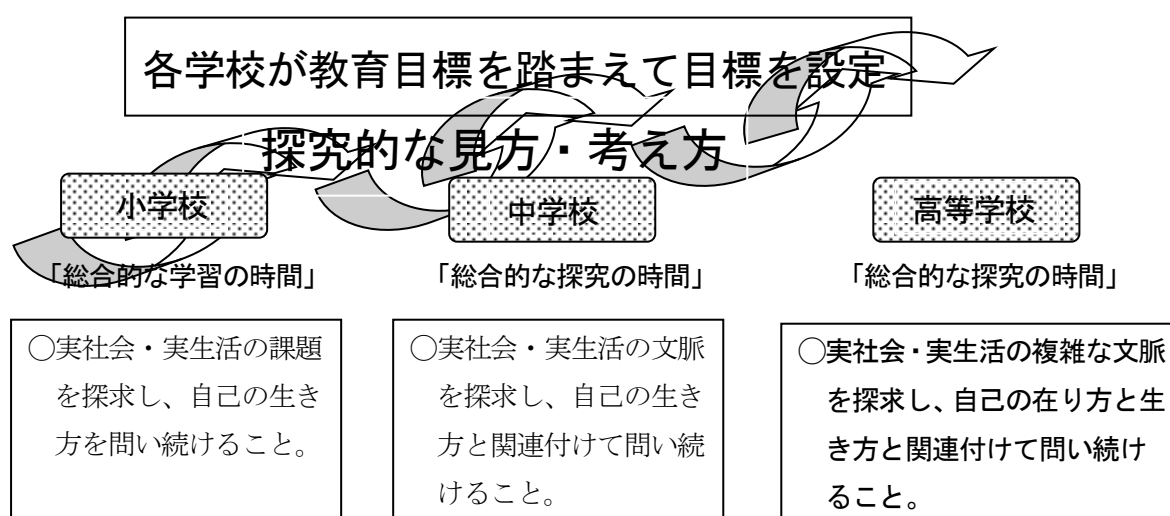
さらに、小学校・中学校における「総合的な学習の時間」とのつながりを考えると図 2 のように

表1 高等学校学習指導要領比較対照表【総合的な探究の時間】

改訂（平成30年告示）	現行（平成21年告示）
<p>第4章 総合的な探究の時間</p> <p>第1 目標</p> <p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	<p>第4章 総合的な学習の時間</p> <p>第1 目標</p> <p>横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。</p>

探究的な見方・考え方が段階的・発展的に捉えることがポイントになる。その意味でも、従来の校種間連携に「総合的な探究の時間」の意義を共有することが求められる。

図2 「総合的な学習の時間」・「総合的な探究の時間」のイメージ 注(3)



(3) NHK高校講座から見える授業プラン

ここでは、「総合的な探究の時間」を科目として授業する際のイメージをつくるために、2018 年放映されたNHK高校講座の流れを振り返る。

(引用：https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/tanq/archive/resume001..)

■テーマ：仕事と自分（1）

「総合的な探究の時間」の学び方を確認

- テーマから、生徒が自発的に「仮説」を立てる。
- 仮説について「追究・調べて」、「表現・まとめる」ことで新たな「仮説」が立ち上がる。
- これを繰り返すことで、仮説が変化・発展し、考えが深まる。

テーマの確認 『仕事とは何か?』

仮説①を立てる

- 仕事とは、責任・専門家・やりがい・新しい人との出会い

仮説①を追究する

- どんな仕事をしてみたいか? → 自分のできること
 - どんなことをしてみたいか? → 音楽が好きというか、癒やしがあるというか
- さらに
- 好きを仕事にできるのか? → 「音楽」「仕事」で検索 → 「舞台・特殊効果」、「音楽療法」
 - 「音楽療法」に関心が高まる。

仮説①を表現する

- 仕事とは、発見
- 「仮説」が変化し、新たな「仮説」が立ち上がる。 → この仮説を追究する。

仮説②を追究する

- 図書館に行って「音楽療法」の仕事について調べる。
- 図書館でレファレンスをしてもらう。
- 本を紹介してもらい、本に出てきた音楽療法士さんと連絡する。
- 音楽療法士さんと連絡が取れない。

仮説②を表現する

- 仕事とは、つながり
- 「仮説」が変化し、新たな「仮説」が立ち上がる。 → この仮説を追究する。

仮説③を追究する

- 福祉施設の方から連絡。音楽療法士さんにインタビューできる。
- 音楽は、障害や病気を持っている方の健康性を高める。その人が人間らしく過ごせるように音楽を使って関わらせていただく仕事。
- 認知症の方に音楽療法をしているところを見学する。→コミュニケーションの難しさを知る。

仮説③を表現する

○仕事とは、時間をかけてつくられていくものだ。

学習の振り返り

○仮説を追究することで、新たな仮説が立ち上がった。それを表現すると

「心理学や福祉、医学についても調べたいです。実際にやってみたいことはオープンキャンパスに行くことです。仕事に就くまですごく勉強が必要だ。」

この講座の流れは、(2)の図2 高等学校「総合的な探究の時間」の探究の見方・考え方で示した「自らの在り方と生き方と関連付けて問い続けること」のモデルといえる。「総合的な学習の時間」で目標としていた自身の在り方を見つめる「学習」から、課題の発見と解決に焦点が当たった「探究」に替わっているかが「総合的な探究の時間」のポイントとなる。

2. 「探究」をテーマとした校内研修

(1) 先進校に見る「探究」テーマ

現在、実際の現場では「探究」はどのように行われているのか。注目すべき実践が、兵庫県甲南高等学校で「甲南リサーチフェア」という発表会として取り組まれている。「甲南リサーチフェア」とは、グローバルプログラムを履修している1・2年生が、持続可能な開発目標（SDGs）をテーマに取り組んできた課題研究の成果を口頭発表またはポスター発表するイベントである。発表を通して、研究の進め方や効果的な発表方法などを学ぶこと、社会の身近な問題を考える機会を持つこと、持続可能な開発目標（SDGs）への理解を深めることが目的である。

「SDGs（エスディージーズ）」とは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標である。このサミットでは、2015年から2030年までの長期的な開発の指針として、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。この文書の中核を成す「持続可能な開発目標」をSDGsと呼んでいる。

【17の目標】

- ①貧困をなくそう ②飢饉をゼロに ③すべての人に健康と福祉を
- ④質の高い教育をみんなに ⑤ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥安全な水とトイレを世界中に ⑦エネルギーみんなにそしてクリーンに
- ⑧働きがいも経済成長も ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩人や国の不平等をなくそう ⑪住み続けられるまちづくり
- ⑫つくる責任つかう責任 ⑬気候変動に具体的な対策を
- ⑭海の豊かさを守ろう ⑮陸の豊かさを守ろう
- ⑯平和と公正をすべての人に ⑰パートナーシップで目標を達成しよう

(引用：<https://miraimedia.asahi.com/sdgs-description/>)

ここで、「甲南リサーチフェア」で発表されたテーマを紹介する。

○日本で満足に教育を受けないまま大人になった人の自立促進と

このような人を増やさないための取り組み (SDGs①、④、⑧、⑩)

○日本の義務教育学校でアスペルガー症候群の児童と

そうでない児童が一緒に学校で生活するのは良いのか悪いのか? (SDGs④)

○日本の子供の栄養失調を減らしていくには (SDGs①、②、③、④)

○貧困に陥っている母子家庭の子供の教育格差を効率よく改善するためには (SDGs①、④)

○大気汚染対策と地球温暖化対策を両立する方法とは? (SDGs⑦、⑬)

○脱化石燃料をすすめることで起こる雇用問題を解決する方法とは (SDGs⑦、⑧、⑬)

○スニーカーのすすめ ～スニーカーでクリーンな 世界は作れるのか～ (SDGs⑦、⑬)

○LGBT の理解と改善方法とは?

なぜ日本ではあまりジェンダーが理解されていないのか? (SDGs⑤)

○LGBTQ+をメディアを使って理解を深めるにはどうすべきか (SDGs⑤、⑩、⑪、⑯)

○日本で女子プロバスケットボールリーグの実現は可能か? (SDGs⑤、⑧)

○ペットの殺処分とペットビジネスの悪循環を断ち切るためには? (SDGs③、⑩、⑫)

○国内の食品ロスを減らすのにはどうしたらいいか? (SDGs⑪、⑫)

○一律で現金を支給する仕組みのベーシックインカムは 日本で採用すべきか。 (SDGs⑨)

○菜食主義者への理解を深めることで見えてくる国際問題の解決策 (SDGs①、⑬)

○日本にカジノができる日はくるのか (SDGs⑨、⑯)

○発展途上国のエイズ患者に対して先進国と同様の医療を届けることはできるのか (SDGs⑩)

○日本の食料廃棄を減らすには? (SDGs⑫)

○在日外国人に対する日本政府の国籍差別の現実は改善されるべきである (SDGs⑧、⑩、⑯)

○EU離脱によるイギリスの移民問題と日本の移民問題を比べて、

移民は国にとって有益か有益でないかを考える (SDGs⑧、⑩)

○日本の起業率が低い原因と今後の日本の起業率は上昇するのか (SDGs⑧、⑨)

○なぜ外国人労働者は日本で不当に扱われてしまうのか? (SDGs⑧、⑩)

○日本ではなぜ男性の方が女性より出世しやすいのか? (SDGs⑤、⑧)

この発表会のポイントはテーマの設定にある。初回の発表会は「甲南グローバルリサーチ・フェア」とした。しかし、テーマをSDGs（持続可能な開発目標）から選択すること自体がすでにグローバルな見方であり、今後も引き続き探究されるであろう継続的な考え方に立っていることがグローバル化であると考えられる。また、サブタイトルに「新しいものさしで考える」とあるのも、探究的な見方・考え方を示すねらいを効果的に表現している。

この発表会を終えた生徒の声から、自分のやりたいことが真ん中にあるので誰かにやらされた勉強にならない。方向性があった大学を選択できるなどの肯定的な意見がある。また、テーマがなかなか決まらない場合でも、日常的に様々なことに関心に向ける習慣がついてきたという意見も聞かれた。何よりも、生徒の数だけ探究があることは、生徒同士の学び合いが進み、従来の学校の枠を越えた学びの可能性が広がり、相乗効果が生まれていることが大きな成果であると考えられる。

(2) 豊富高校「総合的な探究の時間」～教師が学ぶ～

このように、大きな教育転換を図らなければならない「総合的な探究の時間」に学校全体が取り組む場合、教師自らが生徒の実態を共通理解し、自校の目標をどう設定しどう取り組むかというデザインが必要になる。豊富高校ではアイデアを創造することを目的に、高大連携という幅広い視点から構内研修と生徒向けの講話に取り組んだ。次の資料は、校内研修で活用したプレゼンの一部である。

図3 豊富高校 校内研修（8/21）資料（プレゼン）の一部 注(4)

<h3>「総合的な探究の時間」の目標</h3> <p>第1 目標 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	<h3>「総合的な探究の時間」の趣旨</h3> <p>1. 探究的な学習 問題解決的な活動が発展的に繰り返される学習活動</p> <p>①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ねらいや特性により 順序は前後する </div>
--	---

<h3>探究的な学習</h3> <p>④まとめ・整理 気づきや発見、自分の考えをまとめ、判断し、表現する。</p> <p>○レポート・論文 ○新聞 ○プレゼン ○ポスターセッション ○ウェブページ ○制作・ものづくり ○パネルディスカッション ○報告会 ○社会参画</p>	<h3>探究的な学習の評価</h3> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 信頼される評価 ○評価規準の共通理解 ○評価規準の整合性と適切な評価方法 ○偏りのない評価回数 ○評価規準や評価方法の見直し ○生徒の多様性を評価 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%;"> <tr> <th style="text-align: center;">多様な評価</th> <th style="text-align: center;">過程の評価</th> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> ○多様な評価方法で評価する ○評価対象を広くとらえる ○異なる評価者で評価する </td> <td style="vertical-align: top;"> ○活動前の実態把握、学習途中の状況把握、終末の学習状況把握 ○生徒の変容を大切に、継続的に把握 </td> </tr> </table> </div>	多様な評価	過程の評価	○多様な評価方法で評価する ○評価対象を広くとらえる ○異なる評価者で評価する	○活動前の実態把握、学習途中の状況把握、終末の学習状況把握 ○生徒の変容を大切に、継続的に把握
多様な評価	過程の評価				
○多様な評価方法で評価する ○評価対象を広くとらえる ○異なる評価者で評価する	○活動前の実態把握、学習途中の状況把握、終末の学習状況把握 ○生徒の変容を大切に、継続的に把握				

	<h3>豊富町が目指す「共生社会」</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■ 高齢者との共生社会 ○高齢者と高校生の「ふれあいサロン」 ■ 移住の方との共生社会 ○湯治療養者や新規就農者の移住プロジェクト ■ 社会福祉を考える共生社会 ○若者が考える共生プラン
---	---

(資料作成：但田)

学習指導要領改訂に伴う「総合的な探究の時間」の実践研究
～北海道豊富高等学校「地域探究」シンポジウムを通して～

「総合的な探究の時間」の目標と内容を共通に理解し、地域の産業や地域の課題からテーマを絞り込む話し合いが進む。そして具体的なテーマが出てくると「探究学習」の全体計画が見えてきた。

(3) 豊富高校「総合的な探究の時間」～探究テーマを探る～

豊富高校では、第1学年「総合的な探究の時間」の導入授業、第3学年道徳の授業として「地域探究講話」を行う。内容は次のとおりである。

図4 「地域探究講話」実施計画

地域探究講話要項	
1 目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特徴を知り、地域との結びつきの中で自分が貢献しようとする姿勢を養う。 ・ 地域の課題を把握し、地域振興のため地域の活動へ積極的に参加しようとする態度を養う。
2 道徳教育の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土愛、先人への感謝 ・ 社会的役割と責任
3 日時	8月21日（水） 14：45～15：30（7校時）
4 場所	本校 視聴覚室
5 対象生徒	1学年および3学年 生徒（37名）
6 日程	～14：45 準備・設営（対応 ●●／●●） 14：45～15：25 講話 稚内北星学園大学 教授 但田 勝義様 15：25～ 謝辞（生徒会長）
7 対応	渉外 : ●● 設営 準備 : ●●、●● HR指導 : ●●、●● 当日対応 : ●●、●●
8 備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演者控え室として校長室を使用する。 ・ 生徒は6校時終了後、イスと筆記用具、メモ用紙を持って移動する。

図5 第1学年「総合的な探究の時間」 地域探究シート①

令和元年度 総合的な探究の時間 地域探究 一問いを立てようー

豊富町

～「第5次 豊富町まちづくり計画」を読みましょう～

- ・疑問に思ったこと
- ・興味が湧いたこと
- ・調べてみたいと思ったこと などを3つ挙げてみる。

①
〔あげた理由〕

②
〔あげた理由〕

③
〔あげた理由〕

～グループを作る～

グループ	①	②	③
班 員			
班 員			
班 員			
班 員			
班 員			
担当教員			

図5は、第1学年「総合的な探究の時間」～地域探究～で活用した「地域探究シート」である。生徒一人一人が「第5次豊富町まちづくり計画」から問いを立て、生徒の話し合いや問いの交流の中から共通テーマのグループを構成する。

3. 豊富高校「総合的な探究の時間」

(1) 第1学年総合「地域探究」

第1学年「総合的な探究の時間」の全体計画は次のとおりである。

図6 第1学年「総合的な探究の時間」全体計画 注(5)

第1学年（総合）「地域探究」実施要項																																																	
1 目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の住む地域の特徴について知り、地域に参加する力を養う。 ・調査・体験した内容をもとに発表する力を養う。 																																																
2 道德教育の観点	郷土愛、先人への感謝 公德心、社会連帯																																																
3 対象	1年生																																																
4 日時	令和元年 8月21日（水）（総合⑥）：稚内北星学園大学 但田 勝義 教授 8月22日（木）（総合⑥）：課題設定 8月28日（水）（総合⑥）：調査計画作成 10月 3日（木）（総合②）：調査準備 10月17日（木）（総合②③④）：実地調査 10月24日（木）（総合⑤⑥）：発表準備 10月30日（水）（総合⑥）：発表準備 11月 6日（水）（総合⑥）：成果発表会																																																
5 場所	1年生HR教室、パソコン教室、視聴覚室																																																
6 内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th><th>程</th><th>時 間</th><th>実 施 内 容</th><th>担 当</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 8月21日（水）総合</td><td></td><td>6</td><td>講話 地域の課題について</td><td>進路係・1、3学年</td></tr> <tr> <td>② 8月22日（木）総合</td><td></td><td>6</td><td>事前説明 グループ作成 課題設定</td><td>1学年</td></tr> <tr> <td>③ 8月28日（水）総合</td><td></td><td>6</td><td>調査計画作成 予備調査（PC室等）</td><td>1学年</td></tr> <tr> <td>④ 9月11日（水）総合</td><td></td><td>6</td><td>予備調査（PC室等）</td><td>1学年</td></tr> <tr> <td>⑤ 10月 3日（木）総合</td><td></td><td>2</td><td>実地調査準備（PC室等）</td><td>1学年</td></tr> <tr> <td>⑥ 10月17日（水）総合</td><td></td><td>2・3・4</td><td>実地調査</td><td>1学年</td></tr> <tr> <td>⑦</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>⑧</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				日	程	時 間	実 施 内 容	担 当	① 8月21日（水）総合		6	講話 地域の課題について	進路係・1、3学年	② 8月22日（木）総合		6	事前説明 グループ作成 課題設定	1学年	③ 8月28日（水）総合		6	調査計画作成 予備調査（PC室等）	1学年	④ 9月11日（水）総合		6	予備調査（PC室等）	1学年	⑤ 10月 3日（木）総合		2	実地調査準備（PC室等）	1学年	⑥ 10月17日（水）総合		2・3・4	実地調査	1学年	⑦					⑧				
日	程	時 間	実 施 内 容	担 当																																													
① 8月21日（水）総合		6	講話 地域の課題について	進路係・1、3学年																																													
② 8月22日（木）総合		6	事前説明 グループ作成 課題設定	1学年																																													
③ 8月28日（水）総合		6	調査計画作成 予備調査（PC室等）	1学年																																													
④ 9月11日（水）総合		6	予備調査（PC室等）	1学年																																													
⑤ 10月 3日（木）総合		2	実地調査準備（PC室等）	1学年																																													
⑥ 10月17日（水）総合		2・3・4	実地調査	1学年																																													
⑦																																																	
⑧																																																	

⑨	10月24日(木) 総合	6	発表準備①(PC室等)	1 学年
⑩	10月30日(水) 総合	6	発表準備②(PC室等)	1 学年
⑪	11月 6日(水) 総合	6	地域探究発表	1 学年・進路係

- 7 備 考
- ・全体で指導するワークシート、評価表は1学年で作成する
 - ・評価の観点
 - ① 主体的に調査を行えたか
 - ② 実施調査やボランティア活動などに積極的に参加できたか
 - ③ 効果的な方法で発表できたか
 - ・4人(5人)グループを3つ作り、調査計画を作成する。
 - ・各グループの担当者は●●、●●、●●とする。
 - ・日程に関しては他の行事等を鑑み、変更することがある。

8 グループおよび実地調査場所

グループ	①	②	③
班 員			
担当教員			
訪問場所	豊富町商工会議所	町内でのインタビュー	稚内市開基百年記念塔 北方記念館

問いを立て、グループが決まった後は、「地域探究」のテーマが決定される。そして、それぞれのグループが下調べをし、具体的な「探究」活動のプランが練られる。図7は、その際に活用されたシートである。班ごとのテーマは、1班は「豊富町の商業施設について」、2班は「豊富町の人口減少について」、3班は、「豊富町の酪農について」と決定した。

図7 第1学年「総合的な探究の時間」 地域探究シート②

令和元年度 総合的な探究の時間 地域探究 ーテーマ決定、下調べー
～チームの問い～

--

～調査方法を考えてみよう～

~~~~~

～下調べ インターネットを用いて～

MEMO

~~~~~

一定期間の下調べを終えるといよいよフィールドワークである。1班は、商工会を中心に閉店が続くまちの商店について探究した。2班のフィールドワークで町民へのインタビューとアンケートを行ったことは、実生活の文脈を探究する実践的な場面となった。3班は、豊富町の酪農の歴史から現在の酪農の様子と将来の酪農の可能性を探究した。この活動は、従来の教育スタイルともいえる教わるという枠組みを越えた学びの可能性を生んだ活動である。

図8 2班フィールドワーク資料 (インタビューとアンケート)

町民インタビュー

女性 (70代くらい)

- ・毎日散歩している。(定住支援センター前の通り)
- ・若い人の働く場所があるといい。

女性 (30代函館から移住)

- ・外出できる場所や交流の場があるといい。
- ・飲食店が少ない。夜の店はあるがランチする場所が少ない。
- ・定住支援センターも町民の交流の場になっているが、高校生があまり来ていないのが気になる。学校帰りに寄れる場所になるといい。
- ・定住支援センターに図書館があることを知らない人がまだいる。

男性 (30代子育て中)

- ・ドラッグストアがあるといい。スーパーなど。
- ・おむつを買いに稚内まで行くので、町内で変えると助かる。

女性 (70代)

- ・路線バスが少ない。町内を巡回するバスが1日3本くらい走ってくれたらと思う。

・JRも本数がない。 ・タクシーが町に一台しかない。

・中学校が町の外れにあるので行事があっても遠いのでいけない。定住のように町中にあるといい。

女性（70代）

・高齢者住宅があるといい。年金生活者でも入れるようなシェアハウスで共同生活できる施設。畑をしながら生活ができる。60歳以上が入れる施設。一人だと不安だが、共同生活だと楽しいのではないか。「一緒に住めるといい」と話している知人がいたため。

女性（70代）

・夢や希望はない。

親子（母親30代子ども小学生）愛知県から

・今回初めて豊富に湯治にきた。思っていた以上に何もなかった。一度日曜日に来たがお店が閉まっていた。町にはバスで来ている。12日間滞在する。

高齢者（80代）

・生活していて特に困っていることはない。住みやすい町だと思う。災害もない。

・定住支援センターができて、本が借りられたり、巡回バスを待つときにも和室があるのでゆっくり食事もできる。今日はお孫さんと一緒に買い物にきた。

・札幌出身で豊富にきて50年になる。庄内に住んでいる。

・月2回の巡回バスで病院に通院している。病院によい先生が来てくれてまわりの高齢者達も喜んでいる。

・お使い物のお菓子などはお菓子屋さんがないので通販で札幌から取り寄せている。

親子（女性20代、子どもの3歳くらい）

・公園はあるが子どもが遊べる遊具が少ない。

豊富いいところアンケート

・人が少ない ・挨拶を返してくれる ・朝のスクールガードの多さ ・静かなところ ・子どもの元気の良さ

・助成金がもらえる（さまざまな場面で） ・人が優しい ・自然が豊かなところ

・地域の人にあいさつしたら返してくれる ・けっこう定住でイベントをやっている

・ビール祭りの牛肉がうまい ・自然、水がきれい ・しずかなところ ・人が少ない。静か

・狭い町だから地図を覚えやすい。 ・ホットシェフがおいしいと思う ・専門家によるとよい地形らしいです。

・山 ・自然がよい ・事故が少ない ・静かな町 ・土地が雄大 ・大規模草地 ・星がきれいに見える

・豊富な人は優しい ・自然 ・星 ・地域の人が優しい ・平和（事件や災害などがあまりない）

・ドライブができる ・山菜採りができる ・自然が多いため生物がでてる ・豊富温泉 ・事故が少ない

・水が多い ・豚さんがかっこいい ・自然がある ・本屋さんがほしい。 ・かわいいお洋服屋さんが欲しい

・バッティングセンターがほしい ・ふわふわき氷屋さんがほしい ・高校にウエイトルームがある

・自然が豊か ・アイヌ文化 ・日曹炭鉱 ・フェルムのソフトクリームがおいしい ・新し目の公共施設

・何もないところが良いところだと思います。 ・サロベツニソンに行った方がいいよ

・自然がたくさん ・天然ガス ・心霊スポット ・ニューホ、ヤンマー、MSKなど ・乳製品

・街灯が少ないから星がきれい ・朝と夜はそんなに人と会わない ・静か ・小さくても公園があるところ

学習指導要領改訂に伴う「総合的な探究の時間」の実践研究
～北海道豊富高等学校「地域探究」シンポジウムを通して～

- ・自然がたくさんあり、保育園もあるから子どもをのびのび育てることができる。 ・星がきれいに見える
- ・自然がきれいなところ ・空気がきれい ・空気がきれい ・とても静か ・車がうるさくても何も言われない
- ・フェルムのアイスクリームがおいしい ・自然豊か ・空気が澄んでる ・人がいなくて静か ・自然豊か
- ・地域の団結力（停電のときとかそう思った） ・空がきれい ・何にもないけど地方からたくさん人がくる
- ・なし（3名）

豊富のこうだったらいいアンケート

- ・新しい店があってほしい ・店や遊ぶ場所を増やして欲しい ・もっと店ができればいい
- ・森があるからアスレチックがほしい ・本屋さんがほしい ・道の駅 ・私は今の豊富で満足です
- ・中高生が買い物できる場所（服屋さんなど） ・もっと有名な人たちが来れるところ ・店が多かったら
- ・人がもっと多かったら ・豊富にもアイドルを（乃木坂みたいな） ・・・・とくに思いつかないな
- ・大きなデパートがあればいい ・バイク王 ・本屋 ・店がもっと増えて欲しい ・豊富にジムがあればいい
- ・スポーツセンターにウエイトルームがあればいい ・本屋さんがほしい ・かわいい洋服屋さんがほしい
- ・バッティングセンターがほしい ・ふわふわかき氷屋さんがほしい ・牛さんがかわいい
- ・ヨドバシ ・ローソン ・ツタヤがあったらいい ・豊富の面積のどのくらいを畑や牧場に使われているか
- ・ショッピングモールがあるといい ・道の駅 ・バスなどの交通を増やす ・バスとかがいっぱいあったらいい
- ・ごみ拾い ・セブンイレブンがあったらいい ・遊べる場所（ゲーセン） ・分からない ・セブンイレブン
- ・イベント多く ・何か年間の予算？を使い切らなきゃ来年から予算削られる制度をどうにかして
- ・大きい店 ・人増やす ・店を増やす ・ごみ拾い ・色んな店でアルバイト体験 ・遊ぶ場所が増えたらいい
- ・新幹線 ・若い人材 ・旭川行きバス ・もっとイベントを多くして町を盛り上げる ・店を増やして欲しい
- ・もっと若者が来て盛り上がるような町づくり ・若い人がでていくのではなく迎え入れるような町
- ・ファミマほしい ・なし13名

(2) 「地域探究」シンポジウム～第1学年報告会

豊富高校第1学年「地域探究」の探究のプロセス「整理・分析」は、グループごとに行われ、「まとめ・表現」は全校生徒・町民の方を交えたシンポジウム（報告会）として行った。

開催要項は次のとおりである。

図9 豊富高校シンポジウム（第1学年「地域探究」報告会）実施要項 注(6)

1 目 的

- (1) 豊富町の現状について理解を深め、郷土愛を育む。
- (2) 町の将来を支える人材としての自覚が芽生えるきっかけを作り、帰属意識を高める。
- (3) 外部の方々との積極的な交流を促し、コミュニケーション能力を育成する。
- (4) 高校生の柔軟な発想を町に提案し、豊富町の発展に貢献する。

2 道徳教育の観点 「自主・自立」「理想の実現」「寛容・謙虚」「権利と義務」「公德心」「愛校心」

3 日 時 令和元年12月20日（金）5～7校時（12：55～15：30）

4 会 場 本校体育館

5 テーマ 「豊富町の未来について考える」

6 時 程・内 容

時 程	内 容	担 当
12:30 ～12:50	受付	受付担当教員（●●） 事務
12:55	開会式	生徒会執行部
13:00 ～13:25	「地域探究成果発表」（1学年・25分）	1 学年
13:30 ～14:00	講演「これからの豊富町について」（町・30分）	豊富町町長 河田 誠一様
14:00 ～15:20	14:00～14:10 休憩・準備 14:10～14:20 グループ協議説明 14:20～15:00 グループ協議 協議テーマ「これからの豊富の産業」「福祉と健康のまち豊富」「自然・観光・まちづくり」 15:00～15:10 各グループ発表 15:10～15:20 ファシリテーターによる講評	全体司会：生徒会執行部 全体のファシリテーター： 稚内北星学園大学 教授 但田 勝義様 グループの司会：生徒会執行部、旧生徒会執行部 グループのファシリテーター：教員
15:20	閉会式	生徒会執行部
	後片付け	

※事後アンケートを取り、生徒会は今回の内容のフィードバックを行う。

フィードバックについては、書類にまとめて参加者に配布する。

7 参加者 別記

8 グループ協議の方法

- (1) 8～9人のグループに分ける（生徒6～7人、来賓2～3人）
- (2) それぞれグループに協議テーマ「これからの豊富の産業」「福祉と健康のまち豊富」「自然・観光・まちづくり」を割り振っておく。生徒会執行部、旧生徒会執行部の生徒を司会として、話し合いを進めさせる。
- (3) 話し合いには付箋と模造紙を用いる。ただし付箋と模造紙はあくまで補助として用いて、結論は模造紙の方に大きく書いてもらう。
- (4) 話し合いの流れは、
 - ・与えられた中テーマから、特に話したい小テーマを抽出する
 - ・小テーマについて、活動案、現状の課題とその改善策など、これからの豊富町のためのアイデアを出す
 - ・出た意見を発表に向けて、模造紙にまとめる
- (5) 発表は各班1分以内。模造紙をカメラで撮影し、その画像をプロジェクターでスクリーンに映す形で見せながら紹介する

学習指導要領改訂に伴う「総合的な探究の時間」の実践研究
～北海道豊富高等学校「地域探究」シンポジウムを通して～

8 業務分担

業務	担当	内容
総務	●●、●●	全体統括・企画運営・当日の時間管理
渉外	教頭、●●、●●	外部との連絡調整
受付	●●、●●	来賓の受付
地域探究発表補助	●●、●●	地域探究成果発表の補助
グループ協議補助	●●、●●、●●、●● ●●、●●	グループ協議の補助 A : ●● B : ●● C、D : ●● E、F : ●● G、H : ●● I : ●●
記録	●●	写真撮影

第1学年3つの班から、次のようなプレゼンを活用した報告があった。

図10 1班「豊富町の商業施設について」(一部)

「地域探究」
探究とは？

①課題の設定
②情報の収集
③整理・分析
④まとめ・表現

※文科科学省「高等学校学習指導要領(2017年度版) 総合的な探究の時間」を基に編集された資料

そもそも、「地域探究」とは？

「総合的な探究の時間」で取り組んだ、自らが住む「**地域**」について、課題を見つけ、問いを立てながら「**探究**」する授業です。

地域×探究

「地域探究」成果発表

班ごとにテーマを決め、探究活動をしました。各班のテーマは以下のようになっています。

①豊富町の商業施設について
②豊富町の人口減少について
③豊富町の酪農について

高齢化による閉店

人口減少によって、店の件数が減っている
→全体としては減っているが、新しいお店もできている

新しいお店代表フェルム！！

- ・フェルムは平成26年7月に開店しました。今年で、5周年だそうです。
- ・近隣の町からもたくさんお客さんが来る、人気なお店です！！

学んだことを生かして新しいお店を考えてみた！！③

- ・お菓子は既にフェルムのバタークリームサンドや、羊羹などがあります。
- ・期に残るというのなら、スタンプやキーホルダーとか
- ・牛乳を使ったお菓子はもっと、考えられそうです。

図11 2班「豊富町の人口減少について」(一部)

町民インタビュー

大通りが寂しい。もったいなくてできれば・・・

町民インタビュー

お子さんが家族にいますか？
→子供の生活に必要なものが十分に手に入らない(おむつなど)
→公園の遊具が少ない

豊富に長く住んでいる女性
長く住んでいると住みやすさを感じる。
バスの待ち時間や本を借りるときに定住支援センターは便利。

1. ペルソナ(架空の人物)の作成

4. 課題定義文を作る 佐藤さん(架空の人物)に必要な事を文に書いて考える

大勢12歳中学生6名、小学生7名

ドレーパーやバスの駐車場
観音堂や自動販売機
生活館活用
お土産で試食
おみやげの販売所
中庭や小公園
自転車駐輪場

まとめ

住みやすい街づくりを考えるために町民インタビューなどを通して聞き込みをしたところ、「夢も希望もない」と言っている人がいる一方、長年住んでいる人からは「とても住みやすいと思う」という意見も聞けた。

道の駅 観光マップ 観光案内の看板 つくる
→豊富町の魅力が増す(?)
→観光客も増える(?)

図12 3班「豊富町の酪農について」(一部)



報告会の成果として考えられるのは、探究学習の意義が明確になっていること、地域と探究の関連を3つの班ともに捉えていること、探究のプロセスの課題である「整理・分析」「まとめ・表現」が時間を確保ししっかりと取り組まれていることが考えられる。課題としては、発表が原稿に頼りすぎていること、グループ内の発表に工夫がほしいこと（一人で発表する）、報告会にもう少し時間を確保しても良かったのではないかと考えられる。ただ、第1学年でしかも初めての「探究学習」という点を考慮すると、探究のプロセスに基づいた学習を積み重ねてきたことが容易に想像できる報告であった。

図13 報告会の様子



(3) 「地域探究」シンポジウム～グループ討議

全校生徒と参加した町民の方を、1つのグループが生徒6～7名、町民2～3名の計8～9人の9つのグループに分けられた。事前に「これからの豊富の産業」「福祉と健康のまち豊富」「自然・観光・まちづくり」の3つの協議テーマを割り振り、全体進行は生徒会役員とファシリテーター（但田）が行う。各グループの座長は3年生を中心とした生徒が進行する。話し合いの形式は付箋と模造紙を用いる（KJ法）。ただし付箋と模造紙はあくまで補助として用いて、結論は模造紙の方に大きく書くこととする。

図14 グループ討議の様子①



話し合いの流れは、①与えられた中テーマから、特に話したい小テーマを抽出する。②小テーマについて、活動案、現状の課題とその改善策など、これからの豊富町のためのアイディアを出す。③出た意見を発表に向けて模造紙にまとめる。

異学年の生徒や初めて顔を合わす町民の方がいたりして、少しぎこちないスタートとなったが、次第に座長が慣れ参加者（特に町民の方）が積極的に話し合う

様子がうかがえた。学校という枠から、学習の形態も参加者も異なる環境の中で学ぶ意義と効果を感じる場面であった。特に、座長を務めた生徒の「仮説」→「追究」→「仮説」→「追究」→「表現」の探究過程がよくわかるグループ討議であった。

討議が終了しまとめに入り、全体の前で話し合いの交流をする。各グループの発表が視覚的な効果があるようにプロジェクターにしたが、準備の時間的ロスと発表内容との関連から考えると更なる工夫が必要である。発表内容を次に紹介する。

図 15 グループ討議のまとめ（模造紙発表）



4. 「地域探究」シンポジウムの成果と課題

(1) アンケート集計から

今回の「地域探究」の取組が、豊富高校の「総合的な探究の時間」に生かされ、地域にさらに目を向けた授業となるように事後アンケートが行われた。どの地域にもその地域のよさがある。地域や学校の特色に応じた課題を、自己の在り方生き方と関連付ける視点からも大切なことである。

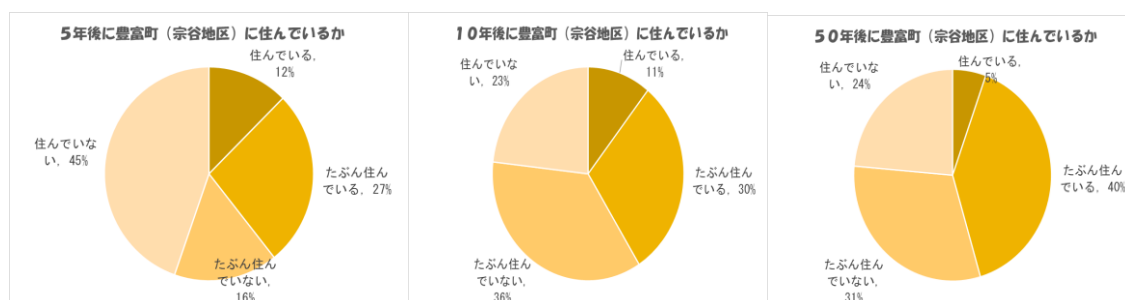
図 16 生徒用事後アンケート

令和元年度 北海道豊富高校シンポジウム 生徒用アンケート				
学年 () 年生	コース	文理	・ ビジネス	※1年生は来年度の希望コースに○をつけてください。
1) あなたと豊富町(宗谷地区)についてお答えください。当てはまるものに○をつけてください。				
①あなたは5年後、豊富町(宗谷地区)に住んでいる予定ですか？(卒業後)				
住んでいる	たぶん住んでいる	たぶん住んではない	住んでいない	
②あなたは10年後、豊富町(宗谷地区)に住んでいる予定ですか？(大学・専門卒業後)				
住んでいる	たぶん住んでいる	たぶん住んではない	住んでいない	
③あなたは50年後、豊富町(宗谷地区)に住んでいる予定ですか？(定年退職後)				
住んでいる	たぶん住んでいる	たぶん住んではない	住んでいない	

①～③の理由
2) ②、③で「たぶん住んではない」「住んでいない」を選択した人のみ教えてください。 あなたはどのような地域に住みたいと思っていますか？また、その理由も書いてください。
どのような地域に住みたいか、またその理由
3) 今日までの学びを経て、あなたの考える豊富町の良いところとはどのようなところですか。当てはまるものすべてに○をつけてください。また、選択肢にない場合は、記述欄に書いてください。 住んでいる人 ・ 自然 ・ 食べ物 ・ 酪農業 ・ 温泉 ・ 観光業 ・ 治安 工業 ・ 飲食店 ・ 福祉 ・ 教育 ・ 祭り（イベント） ・ 雰囲気
4) 今日までの学びを経て、あなたの考える豊富町の課題はどのようなことですか。記述欄に書いてください。
5) 今回のシンポジウムで印象に残ったことを教えてください。
6) 今回のように、地域の人など学校外の人たちを交えて協議してみたいテーマがあったら教えて下さい。

このアンケートで興味深い結果がある。1) の5年後、10年後、50年後に豊富町（宗谷管内）に住んでいると思うか。の問いで、「住んでいる」「たぶん住んでいる」と回答している割合がわずかではあるが増えていることである。2019年度内閣府の若者の意識調査によると、現在住んでいるところに将来も住みたいと答えた若者が30.2%であることを考えると、積極的か否かは別に地域（ふるさと）への帰属意識がやや高いかと考える。そういう実態の中で、地域の産業やまちづくりを積極的に考え、現在のまちづくりへの疑問や課題を探求したことは、地域の活性化につながる貴重な学習であった。

図17 生徒事後アンケート 1) 将来豊富町（宗谷管内）に住んでいるか？



(2) 成果と課題（まとめとして）

「総合的な探究の時間」で各学校が定める内容には、探究課題としてどのように関わり、どのような資質・能力を育成するかが示されていなければならない。従来の学習対象を「生徒が課題について探究することを通して学ぶという学習過程も重要であることを明確にするため」注(7)今回の改訂では「探究課題」としている。学習指導要領では、「総合的な探究の時間」の目標から導かれた3つの要件

- (1) 探究の見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること
- (2) その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
- (3) その課題を学ぶことにより、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること

を満たされた探究課題が、参考として例示されている。

以下に、例示された課題の特色を示すと

①現代的な諸課題に対する横断的・総合的な課題

- ・社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題
- ・国際理解、情報、環境、福祉、健康など持続可能な社会の実現に関わる課題
- ・各教科・科目等の枠組みでは取りあげられない課題に大きな意義
- ・多様な意識を生かす点では、持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標も参考

②地域や学校の特色に応じた課題

- ・すべての地域社会には、その地域のよさや特色が存在
- ・地域や社会を変え、社会に参画貢献していることを実感できる課題
- ・まちづくり、伝統文化、地域経済、防災など地域の創造に関わる課題

③生徒の興味・関心に基づく課題

- ・発達段階に応じて興味関心を抱く課題
- ・一人ひとりの生活に関わり、自己の在り方生き方につながる課題
- ・文化の創造、教育保育、生命医療など身近な課題

④職業や自己の進路に関する課題

- ・自分の生き方について現実的、实际的に検討する課題
- ・自己の進路について納得いくまで探究する機会を与え、自己の中で統合できるまで導くこと
- ・職業、勤労の意味を理解

とまとめることができる。

これらの視点を踏まえて、豊富高校の「地域探究」を振り返ると

【成果】

- まちづくりの創造に今後も関わって行こうとする意識が高まった。
- シンポジウム形態の報告、グループ討議で社会参画・貢献の意識が育まれている。
- 町民の参加が、地域との連携のみならず「地域の意見」としての関係性が生まれている。
- 生徒の主体的な発表や教師の関わりをみて、学校が定めた探究課題が実態にふさわしいと感じた。
- 1年目の取組ながら、目的や技法が明確に示され探究課題に迫る教育活動であった。

【課題】

- それぞれの報告やグループ討議は良かったが、「比較する」、「多面的・多角的に見る」、「構造化する」考察があると相互に関連性のある学習に広がる。
 - 2年次、3年次にどのようなテーマをもつのか、継続性・発展性に課題を感じる。
 - ポートフォリオの活用、指導と評価の一体化など評価の方法を工夫する必要はないか。
 - グループ発表に固定化しないで、個人発表も交えて表現の質的転換を図る。
- といえるのではないか。

(3) 今後の方向性（まとめとして）

今後更なる発展を目指すポイントは、持続可能とグローバルな視点である。前述の成果と課題でも示したが、少子高齢化、人口減少を迎えている地域の活性化は、内容的にも実現性でも困難さを抱え膨大なエネルギーが必要である。自分の在り方生き方を真剣に考えるほどその困難さが現実化する。したがって、各学校が「探究課題」定めるとき、学校が継続性・発展性・可能性を見通した議論が必要となる。

本論文1.(3)、2.(1)の先進校の例示にあるよう、「仮説を立てる」、「仮説を追究する」、「表現する」を繰り返しながら、自分の仮説が変化する過程から探究していく考え方や例えば持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標をテーマに設定することは、生徒の多様な意識を生かす探究学習への期待といえる。また、発表として探究を表現する方法も探究であるならば、形式や形態にとらわれず、生徒自身がどんな形態で表現するかも考えさせるのが良いのではないか。

最後に、本論文作成に際して北海道豊富高等学校 佐藤康則校長、小川原香織教諭には、資料提供等ご理解とご協力をいただいたことに深く感謝申し上げる次第である。

● 注

- (1) 「探究的な学習」の探究のプロセスを、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の4つの過程にまとめている。
- (2) 2015年 文部科学省「総合的な学習の時間の成果と課題について」掲載されたグラフを編集。
- (3) 文部科学省「総合的な探究の時間解説」から、学校間の目標のつながりを解説。
- (4) 2019年7月22日 北海道豊富高等学校で実施された校内研修資料（プレゼン）。
- (5) 北海道豊富高等学校 生徒指導部校内提案資料より
- (6) 北海道豊富高等学校 生徒指導部校内提案資料より
- (7) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」P86

●参考文献

- ・文部科学省 中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（答申）」1996年
- ・文部科学省 教育課程審議会「総合的な学習の時間（答申）」1998年
- ・文部科学省 「小中学校学習指導要領」19983月告示

- ・文部科学省 「高等学校学習指導要領」1999年3月告示
- ・文部科学省 「中学校学習指導要領」2008年3月告示 2010年11月一部改正
- ・文部科学省 「高等学校学習指導要領」2009年3月告示
- ・国際教育到達度評価学会（IEA）「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS 2015）」2015年
- ・経済協力開発機構（OECD）「生徒の学習到達度調査（PISA 2015）」2015年
- ・文部科学省 「総合的な学習の時間の成果と課題について」2015年
- ・文部科学省 「中央教育審議会答申」2016年12月
- ・NHK高校講座 「総合的な探究の時間」第1回（2018年）

引用：<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/tanq/archive/resume00>

- ・文部科学省 「高等学校学習指導要領」2018年3月
- ・文部科学省 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総合的な探究の時間編」2018年7月
- ・イマココラボ 2019年 引用：<https://miraimedia.asahi.com/sdgs-description/>
- ・内閣府 「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成30年度）」2019年6月
- ・北海道豊富高等学校 校内研修計画 2019年6月
- ・北海道豊富高等学校 「地域探究」全体計画／指導計画 2019年8月

● 英文タイトル

Accompanying the revised Course of Study, practical research on

"Comprehensive time for inquiry"

～ Through the Hokkaido Toyotomi High School "Regional Exploration" Symposium ～

● 英文要約

The shrinking working-age population, globalization and technological innovation are causing rapid social change, making it difficult to predict. In such an era, school education aims to solve problems in collaboration with others, to reconstruct information and connect it to new values, Is required to be able to be reconstructed.

In this context, the High School Study Guideline, which will be fully implemented in the year 2022 (Reiwa 4), states that "the time for comprehensive study" It is a "time for comprehensive research" with the goal of cultivating the qualities and abilities to better discover and solve issues while thinking about the way of life through self-learning.

In this paper, we analyze the results and issues of the current "integrated learning time" and discuss the significance and future potential of new inquiry learning with students, teachers and staff, and townspeople at Hokkaido Rich High School. We will verify through the symposium we have held and report on the "time for comprehensive research".

